

【ねがいましては】

第50号

平成4年11月28日
共和珠算学習塾 新浜

かにの本

先日、あるお母さんから一冊の本をお借りしました。表題「かにの本」、これだけだと何?ということなのですが、副題がすごい『子どもを悪くする手引き』原作はドイツのザルツマンという方で、1780年に出版されたそうです。200年余りも前の教育書ということですが、古今東西教育問題は、この本を読むかぎり歴史を感じさせません。もっとも村井 実さんの翻訳に助けられているところもあるでしょう。

この本のすごいところは、子どもたちを取り巻く環境(親たち)への痛烈な批判です。この本は子どもたちにとっては正義の味方なのです。

では、その中からひとつ

《子どもを悪くするためのいちばん手軽な方法》

—北川さんの家に、ある日、2~3人のお客様がいましたが、子どもたちもその席に出て、一緒に食事をすることになりました。ところがその席で、子どもたちはお客様に対し目にあまるような振る舞いをしました。席に着くや否やヒロシが口をきりました。

「ギョッ、ぼくのおはしがないや。タケシ、おまえがとったんだろう」

「うるさいぞ、トンマ野郎。おまえのはしなんか知ったことか」

「おまえにきまってらい、野蛮人め。とれるものならゴミでもとりたいやつだからな」

「静かに、静かにしなさい。ほら、ヒロシさん。別のおはしをあげますからね」

「あつ、ヒロシのやつ、ぼくのパンをおぜんの下に捨てたな」

「わざとしたんじやありませんよ、ヒロシさん。とっておあげなさい」

「そーれ、とってやったぞ。このできそこないめ」

夫妻は赤面して目を伏せ、代わるがわる子どもにやさしい言葉をかけたり、にらみつけておどかしたりしました。ことに言葉づかいがあまりにも荒々しくて下品なので、夫妻は子どもたちの一言ひとことですつかり汗をかいてしまいました。

北川さんはやむを得ず、もっともらしいおももちで、こう言って弁解しました。

「家の中では何一つ、下品なことを見もせず聞きもしないのですが、いったん外に出て学校に行ったりしますと、次々と下品なことばを覚えてくるのです。困りますねえ、あんなことばは家ではいっ�んも聞いたことがないんですよ」

客の帰ったあとで、彼はさっそく子どもたちを呼んで尋ねました。「たけし、いったいだれにあんな下品なことばを聞いたのだね・・・さあ、何も恥ずかしがることはないだろう。トンマ野郎ということばはいったい誰に聞いた」「おとうさんに聞きました」「ばっ、ばかな。しかし、おまえの『できそこないめ』というのを誰に聞いた」「おかあさんに聞きました」

これを聞くとおかあさんは思わずカッとなりました。

「まあ、このできそこないめ」彼女はいいました。「私に聞いたんだって、覚えておいで。その口を八つ裂きにしてあげるから。この野蛮人め。考えてもごらん。そんな野蛮なことをおかあさんに聞きましただなんて。そんなことばをいつわたらしから聞いたのよ」

(あすなろ書房)

12月の予定

8日(火)	検定試験合格発表
24日(木)	小学生・・クリスマス会 くわしいことはべつにお手紙を渡します
25日(金)	中学生・・" "
26日(土)	学習科・・冬期講習が始まります。内容に関しては別紙にて・・

*冬休みの予定もクリスマス会のお手紙とあわせてわたします。